



北海道大学総合博物館冬季企画展示

北大古生物学の巨人たち

2017年1月31日(火)～4月2日(日) 北海道大学総合博物館1階 企画展示室 (入場無料)

開館時間=10:00-17:00 休館日=月曜日(祝日の場合は翌日休館) 2/25(土) 3/12(日)

協力=足寄動物化石博物館、むかわ町穂別博物館、沼田町化石館



札幌市北区北10条西8丁目(北海道大学キャンパス内)

TEL : 011-706-2658

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

【セミナー】会場=北大総合博物館1階 知の交流 時間=13:30-15:00

2/5(日) 「触覚と写真—光の化石—」 石崎幹男 (写真家)

2/12(日) 「北大化石標本コレクションの系譜」 越前谷宏紀 (北海道大学総合博物館)

2/19(日) 「ニッポノサウルスの最新研究」 高崎竜司 (北海道大学理学院)

3/5(日) 「デスモスチルスの発見、発掘と研究」 田中嘉寛 (沼田町化石館)



Takumi Nagao

Saburo Oishi

Ichiro Hayasaka

Masao Minato

Makoto Kato



UHR 3808
Takumi Nagao



UHR 3904
Saburo Oishi



UHR 32384
Ichiro Hayasaka



UHR 16227
Masao Minato



UHR 32412
Makoto Kato

北海道大学では、古生物の研究が盛んに行われてきた。北大総合博物館にはニッポノサウルスやデスモスチルスといった日本を代表する脊椎動物化石や貝化石や植物化石などのタイプ標本が収蔵されている。本展ではこれらの標本を北大古生物学研究の5人の巨人に焦点をあて紹介する。

北大古生物学の巨人たち

北大古生物学研究の基礎を作り上げた初代から第5代目までの教授に着目し、彼らが研究で使用した標本を展示する。長尾巧（初代）の貝化石、大石三郎（第2代目）の植物化石、早坂一郎（第3代目）のフズリナ、湊正雄（第4代目）の二枚貝、加藤誠（第5代目）のサンゴとこれまで一般公開されていなかった標本を展示する。

ニッポノサウルスとデスモスチルスの実物標本

1933年（デスモスチルス）と1934年（ニッポノサウルス）に初代教授の長尾巧によって樺太から発掘された全身骨格。普段は収蔵庫に保管してあるこれらの標本を、本展示開催期間中に限定して一般公開する。

北大古生物研究の今

現在北大総合博物館で行われている脊椎動物の研究について紹介する。北海道むかわ町穂別の恐竜化石、北海道のクジラ化石の最新研究、アラスカなどの海外調査などを標本とパネルで解説する。また、長尾教授のデスモスチルス発掘やむかわ町穂別の恐竜発掘の映像も上映する。

古生物標本の写真

写真家石崎幹男の北大古生物標本の写真を展示する。研究者の目線ではなく、化石標本を「自然の彫刻」と捉えた「造形物」として表現した作品を鑑賞できる。

【セミナー】会場=北大総合博物館1階 知の交流 時間=13:30-15:00

2/5④「触覚と写真—光の化石—」

石崎幹男：札幌を拠点に活躍する写真家。1996年日本新聞協会賞、2001年全北海道広告協会最優秀賞などを受賞。標本を科学者の目だけではなく、写真を通してARTとして表現している。

2/19④「ニッポノサウルスの最新研究」

高崎竜司：北海道大学理学院博士課程。恐竜を始めとした主竜類の内臓（特に胃）の進化を研究。学部時代はニッポノサウルスの再々研究を行い、現在でも研究を継続している。

2/12④「北大化石標本コレクションの系譜」

越前谷宏紀：北海道大学総合博物館資料部研究員。北海道大学理学院で博士号取得。魚竜、首長竜を中心に日本から発見された海棲爬虫類の研究を行っている。

3/5④「デスモスチルスの発見、発掘と研究」

田中嘉寛：沼田町化石館学芸員・北海道大学総合博物館資料部研究員。修士号を北大で取得後、ニュージーランド・オタゴ大学で博士号取得。水生哺乳類の進化を研究している。



開館時間=10:00-17:00 休館日=月曜日(祝日の場合は翌日休館) 2/25④ 3/12④
札幌市北区北10条西8丁目(北海道大学キャンパス内) TEL: 011-706-2658

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/> ●札幌駅北口から徒歩約15分 ●地下鉄北12条駅から徒歩約10分 ※お車でのご来館はできません